

2011年度

事業報告



学校法人 聖母女学院

2011年度 学校法人聖母女学院 事業報告

はじめに

本学院は、「カトリックの人間観・世界観にもとづく教育を通して、真理を探究し、愛と奉仕と正義に生き、真に平和な世界を築くことに積極的に貢献する人間を育成する。」という建学の精神を標榜して、1923年（大正12年）、大阪府中央区玉造に創立・開校した聖母女学院を母体とする。

以来今日では、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・短期大学を擁する総合学院となるまでに発展を遂げ、来年2013年には創立90周年を迎える。

本学院では、「建学の精神」にもとづき、今後も生成発展していくために、2011年度から全学的に経営課題を明らかにした経営改革として「SEIBO 5」（経営改革5ヶ年計画）を進めている。この改革は、各学校が現状の課題を分析し、その目指す学校像を明確にした上で、2011年度下期を起点に、向う5ヶ年間の具体的推進計画を策定し、その実現に向けて本学院が一体となり取り組んでいくものであり、本学院のさらなる発展を意図したものである。

I. 法人の概要

1. 建学の精神

「カトリックの人間観・世界観にもとづく教育を通して、
真理を探究し、愛と奉仕と正義に生き、
真に平和な世界を築くことに積極的に貢献する人間を育成する。」

2. 学校法人の沿革

年	月	
1921年 (大正10年)		フランスよりヌヴェール愛徳およびキリスト教的教育修道会会員が来日
1923年 (大正12年)	3月	大阪市東区(現中央区)に聖母女学院設立
1925年 (大正14年)	3月	聖母女学院高等女学校認可
1932年 (昭和7年)	2月	・大阪府寝屋川市に学舎新設, 移転 ・聖母女学院小学校開校
1947年 (昭和22年)	4月	学制改革により聖母女学院中学校発足
1948年 (昭和23年)	4月	聖母女学院高等学校開校
1949年 (昭和24年)	4月	京都市伏見区に聖母女学院小学校・同中学校開校 (※昭和35年聖母学院に改称)
1951年 (昭和26年)	3月	・財団法人より学校法人へ組織変更 ・京都市伏見区に聖母女学院幼稚園開園 (※昭和35年聖母学院に改称)
1952年 (昭和27年)	4月	京都市伏見区に聖母女学院高等学校開校 (※昭和35年聖母学院に改称)
1960年 (昭和35年)	4月	大阪府枚方市に聖母女学院幼稚園開園
1962年 (昭和37年)	4月	大阪府寝屋川市に聖母女学院短期大学家政学科開学
1968年 (昭和43年)	4月	京都市伏見区に聖母女学院短期大学児童教育学科設置
1973年 (昭和48年)	4月	聖母女学院短期大学に専攻科(児童教育専攻)併設
1979年 (昭和54年)	9月	京都市伏見区に短期大学学舎新築
1981年 (昭和56年)	4月	短期大学家政学科が京都市伏見区に移転

1986年 (昭和61年)	4月	短期大学家政学科専攻課程の設置 (生活科学専攻、食物栄養専攻)
1988年 (昭和63年)	4月	京都市伏見区に聖母女学院短期大学国際文化学科設置
1991年 (平成3年)	4月	聖母女学院小学校を大阪聖母学院小学校に校名変更
1993年 (平成5年)	4月	聖母女学院短期大学家政学科を聖母女学院短期大学生活科学科に名称変更。専攻科に国際文化専攻を増設
1994年 (平成6年)	4月	聖母女学院幼稚園休園
1998年 (平成10年)	3月	聖母女学院幼稚園廃園
2002年 (平成14年)	4月	聖母女学院短期大学国際文化学科に英語コミュニケーション専攻課程と国際福祉専攻課程を設置
2003年 (平成15年)	4月	聖母学院小学校国際コース開設
2008年 (平成20年)	4月	聖母女学院短期大学国際文化学科国際福祉専攻を生活福祉専攻へ名称変更し、生活科学科に設置
2011年 (平成23年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・聖母女学院短期大学を京都聖母女学院短期大学に校名変更 ・聖母女学院短期大学生活科学科生活科学専攻を募集停止し、同学科にキャリアデザイン専攻を設置。 ・聖母女学院中学校・同高等学校を大阪聖母女学院中学校・同高等学校に校名変更 ・聖母学院中学校・同高等学校を京都聖母学院中学校・同高等学校に校名変更 ・聖母学院小学校を京都聖母学院小学校に校名変更 ・聖母学院幼稚園を京都聖母学院幼稚園に園名変更

3. 設置する学校・学科等

京都・藤森キャンパス 京都府京都市伏見区深草田谷町1

学校名	学科等	
京都聖母学院幼稚園		
京都聖母学院小学校		
京都聖母学院中学校・高等学校	普通科	
京都聖母女学院短期大学	生活科学科	キャリアデザイン専攻 食物栄養専攻
	児童教育学科	
	専攻科	

大阪・香里キャンパス 大阪府寝屋川市美井町18-10

学校名	学科等
大阪聖母学院小学校	
大阪聖母女学院中学校・高等学校	普通科

4. 学生・生徒等数の状況（2011年5月1日時点）

単位：人

学校名	総定員	入学者数	在籍者数
京都聖母学院幼稚園	280	51	141
京都聖母学院小学校	960	108	792
大阪聖母学院小学校	630	95	554
京都聖母学院中学校・高等学校	1,200	219	753
大阪聖母女学院中学校・高等学校	912	119	401
京都聖母女学院短期大学	640	283	481
総計	4,622	875	3,122

5. 教職員の概要（2011年5月1日時点）

単位：人

学校名	教員		職員		総計
	本務	兼務	本務	兼務	
法人部門			22	4	26
京都聖母学院幼稚園	10	1	1	3	15
京都聖母学院小学校	45	12	2	0	59
大阪聖母学院小学校	28	6	2	2	38
京都聖母学院中学校・高等学校	52	39	6	0	97
大阪聖母女学院中学校・高等学校	31	31	2	2	66
京都聖母女学院短期大学	35	87	20	4	146
総計	201	176	55	15	447

6. 役員・評議員の概要（2012年3月31日時点）

理事・監事

単位：人

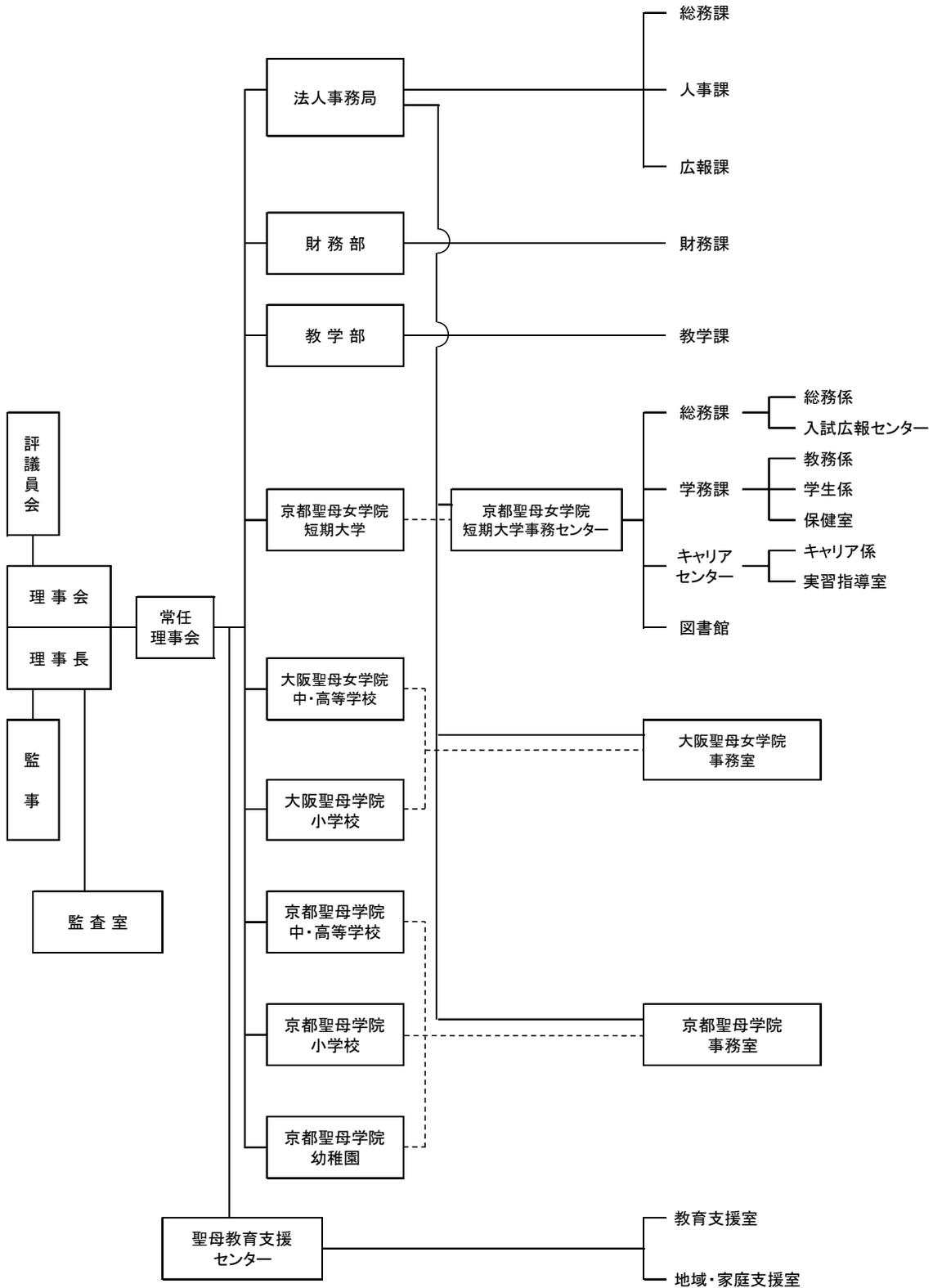
	現員	定員
理 事	8	9～11
監 事	2	2

評議員

単位：人

	現員	定員
評議員	19	19～23

7. 組織図 (2012 年 3 月 31 日時点)



Ⅱ. 事業の概要

法人部門

1. 施設大規模改修（耐震補強等）工事の実施

2009年度から進めている耐震補強工事を含む校舎等の大規模改修工事として2011年度は、大阪・香里キャンパスの大阪聖母学院小学校の耐震補強およびリニューアル工事を実施した。また、2012年度に向けて、大阪聖母学院中学校・高等学校の耐震補強およびリニューアル工事を実施すべく業者選定、補助金申請の準備を進め、京都・藤森キャンパスで京都聖母学院小学校の教室・廊下のリニューアル、京都聖母学院中学校・高等学校の空調改修および東館トイレ改修工事等を実施し、さらなる教育環境の整備に努める。

2. 幼稚園バスの導入

2011年4月から園児送迎のための通園バスを新規に導入し、保護者の負担を軽減するとともに広範囲からの園児の受け入れを可能にした。2012年度からは、ルートを1ルート増やし、さらに保護者の期待に応える体制とする。

3. 保育園の新設

2010年度から新設準備を進めてきた保育園が社会福祉法人聖母学園大阪聖母保育園として2012年4月に開園することになった。今後、0歳児から5歳児までの受け入れを行う保育園として本学院が長年培ってきた幼稚園経営と短期大学での児童教育を十分に活かし、地域への貢献を果たしていく。

4. 管理・運営財政

(1) 「SEIBO 5」(経営改革5ヶ年計画)の推進

2011年度より本学院の「建学の精神」にもとづき今後も生成発展していくために、「SEIBO 5」を推進し、経営改革を進めている。「SEIBO 5」は、全学的に取り組むべき課題を5つのテーマとし、これを5ヶ年のサイクルで取り組んでいくものである。毎年、活動の成果と課題を振り返り、さらに環境の変化に即応した活動を展開するため、見直しを図り、ローリングしながら計画を策定していく。

①建学の精神の徹底と教育力向上

創立以来、本学院に受け継がれてきた教育の使命である「建学の精神」を徹底することでさらなる教育力の向上を図る。

②入学者の安定的確保

近年、少子化が進む中、入学者の確保が大きな課題である。伝統にもとづく教育を土台とした魅力ある聖母教育に取り組むことで選ばれる学校になり、入学者の安定的確保に注力する。

③財政の健全化

財政の健全化には、入学者の確保による授業料等納付金や補助金による収入の安定と支出の見直しによる経費の削減に取り組むことで収支バランスを図り、財政の健全化を図る。

④環境の整備（仕組み・制度、キャンパス）

本学院の従来の仕組みや制度を見直すとともに、キャンパス全体の施設・設備の改修を行い、充実した環境の整備を図る。

⑤一体感の醸成

教職員をはじめ、園児・児童・生徒・学生、保護者、同窓生、そして本学院に関係する全ての方々と連携し、一体感の醸成を図る。

（２）組織の改定

本学院のより一層効率的な改革を推進するため、組織の改定を次のとおり行った。

①財務部新設（２０１１年７月１日付）

財政の安定的基盤を確立するため

②教学部新設（２０１１年１０月１日付）

建学の精神にもとづく教育を推進するため

③法人事務局広報課新設（２０１２年３月１日付）

積極的な広報と入学者を安定的に確保する募集体制を確立するため

（３）ガバナンスの確立

教育研究機関として社会的責任を果たすべく、法令遵守や社会的倫理を重んじ、必要な情報開示を行い、適宜、規程の改定およびそれに則った運用を行い、組織の円滑な運営を図った。

（４）健全な財務運営および財務情報の公開

収入に応じた適正な支出を行う積み上げ方式による予算配分を行い、計画的かつ適正な予算執行に努めた。

財務情報を本学院のホームページに公開することで、説明責任を果たした。

５．広報活動・卒業生との連携事業

（１）広報活動

法人全体の広報活動として、２０１１年度はエフエム京都ラジオ出演を行い、各学校・園の様子をラジオを通して告知した。また、法人総合パンフレットとして新たにミニパンフレットを制作し広報活動の充実に努めた。２０１２年３月の法人事務局広報課の新設により、各学校・園の広報・募集活動をサポートする体制を構築した。

（２）同窓会および保護者会との連携事業

同窓会および保護者会と学校法人との共催で東日本大震災復興支援チャリティーコンサートを京都・藤森キャンパスと大阪・香里キャンパスで開催した。

聖母教育支援センター

設置後5年を経た「聖母教育支援センター」は、「教育支援室」および「地域・家庭支援室」が、それぞれの活動を通して、学内だけではなく、地域にも輪を広げてのさらなる充実を図った。

1. 教育支援室

京都・藤森、大阪・香里両キャンパスに設置されている「カウンセリング・ルーム」および「箱庭療法室」は、1976年に京都・藤森キャンパスに設置されて以来35年の長きにわたって、教育的配慮の必要な園児・児童・生徒への教育支援をはじめ、卒業生および保護者への相談支援を続けてきたが、5年前に「聖母教育支援センター」が設置されたのを機に「教育支援室」として新たに発足し、引き続き特別支援教育も含めて、より積極的な教育支援活動を継続してきた。

「カウンセリング・ルーム」および「箱庭療法室」には、2人の臨床心理士と1人教育相談員を両キャンパスに配置し、月曜日から金曜日まで交代で受け持った。

2011年の活動実績は以下のとおりである。

児童・生徒・卒業支援は実数66人、延べ人数821人。保護者支援（電話相談含む）および教員連携その他の実数は154人、延べ人数881人。総実数は220人、延べ人数は1,702人となった。

2. 地域・家庭支援室

京都・藤森、大阪・香里両キャンパスに設置されている「地域・家庭支援室」では、5月より聖書の集い（年10回・藤森 参加者数延べ99人）、子育て講座（年8回・藤森参加者数延べ178人）、生涯養成講座Ⅱ（年9回・香里 参加者数延べ214人）を実施した。子育て支援のための企画として開設した0歳児預かり保育：てんしぐみ（2011年度で終了）（週2回・藤森参加者数 延べ16人）および子育て相談室（週2回・香里）を昨年に引き続き運営した。

5月のマリア祭記念講演会（参加者数80人）には、精神科医・京都少年鑑別所法務技官定本ゆきこ氏、10月のロザリオ祭記念講演会（参加者数55人）には、関西学院長 ルース・M・グルーベル氏をお招きして講演会を開催した。また、特別講演会として、7月には「被災体験を語る」講演会を開催し（参加者数 香里キャンパス60人、藤森キャンパス104人）、宮城県石巻市立飯野川第一小学校教頭の日野峻氏、カンナの会の橋凜保氏をお招きした。

この他、東日本大震災復興支援のためにチャリティーコンサートを両キャンパスにおいて（京都・藤森：12月、大阪・香里：3月）に開催した。（保護者会、同窓会と共催）

これらの活動を支えているのは「ボランティア部」であり、両キャンパスを合わせて、活動実数は355日、活動延べ人数は1,302人となった。

学内においては、スクールボランティアとして学校の要望に応えての支援活動の他、朗読・点訳奉仕、施設訪問等の活動等を通して、学外との交流および地域支援により一層貢献した。

その他、「サークル in 聖母」のメンバーであるコーラス（集会数28回、延べ440人参加）やステンドグラス講習会（2回開催、延べ20人）の活動を支援した。

京都聖母学院幼稚園

6月にスタートした「SEIBO 5」の構想の中で、現状の園の課題を4つの観点にしぼり、それぞれの課題克服に向けてのプロジェクトを立ち上げた。

1. 聖母っこキラキラプロジェクト

(教育カリキュラムを見直し、教育の質的充実を図る)

夏季教員研修会で、現在展開しているカリキュラムを見直し、在園児の姿をもとに新しいカリキュラム作成に着手した。この結果、「宗教教育」「体づくり」「自由作業(エッセイズと改称)」を柱とし、2012年度に第1次案をまとめることを目指して研究を継続することとなった。

2. 聖母ファミリープロジェクト

(本園に集う保護者・教職員の一体感の醸成を図る)

いかにして保護者に本園の取り組みを正しく知っていただき、その成果を評価していただくかを課題として取り組んだ。そして、この園が保護者にとっても子育ての大切なコミュニティとなるように、さまざまな企画を実施した。

(1) 保育参観の充実

年2回であった保育参観を6回実施し、アンケートを行った。

(2) 園だよりの充実

月2回を目標に発行し、30号まで発行した。

(3) ホームページの充実

園長・年少・年中・年長の四つのブログを開設し、日々更新した。

(4) 子育て学習会「根っこの会」の実施

年5回開催し学びの場を設けた。

(5) 東日本大震災支援の実施

バザーを開催したほか、チャリティーコンサートにも保護者コーラス隊に参加していただいた。

3. 先生キラキラプロジェクト

(教員の指導力向上と業務の効率化を図る)

子どもたちを輝かせるためには、まず教員が輝いていなければならない。限られた時間の中で、質の高い保育を実現できる教員集団になれるよう取り組んだ。

(1) 園務分掌を見直し、教員個々の園務分担を明確にした。

(2) 会議を見直し、業務の効率化をめざした。

(3) 京都府や京都市の私立幼稚園研修に積極的に参加して、指導力の向上に努めた。

4. いらっしやいプロジェクト

(健全な財政をめざして園児の安定的確保を図る)

本園を望んで多くの子どもたちが入園してくれるために、新しい魅力的な実践を検討し全教員で募集・広報活動に取り組んだ。

- (1) ホームページを日々更新した。
- (2) より多くの方々に来園していただけるように、新規の入園希望者の紹介を、現保護者や同窓生の保護者に協力をお願いした。
- (3) 新しいシステムによる週3回の給食・バスの路線拡充（2ルート開設）・未就園児クラスの充実等について、検討し、2012年度からの実施の準備を行った。
- (4) 地域子育て支援事業の一環として、「子育て支援カフェ」を開設したり、「せいぼであそぼ！」を広く地域に呼びかけたりした。

それぞれのプロジェクトの成果は、これからであるが、全教職員一丸となって「SEIBO 5」に参画する意識は着実に芽生えてきたと実感している。

京都聖母学院小学校

SEIBO5の取り組みの中で、大きな視点から、あるいは細部にわたり、学校改革の取り組みを試みた1年間であった。

1. 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

- ①カトリックの人間観・世界観にもとづいた建学の精神を基盤に教育を進める中で、「創造性豊かな子ども」「誠実な子ども」「人を大切にし、奉仕の喜びを知る子ども」「生きるための力をもつたくましい子ども」の育成を目指した。

中でも早期キャリア教育を模索する中で、キッザニア甲子園と連携して学校借りきりでの全学体験日を実施し、児童がキャリア教育に早期から目覚め考える機会とした。

また、図書館をリニューアルし、児童の読書熱をさらに加速させた。

- ②教員一人ひとりには指導力、教育力において昨年度からの向上を目指し、すべての教育活動を自己研鑽の機会として捕らえ、修養を積み、学校としての組織の教育力アップを目指した。

中でも、職員終礼時に、週1回、教員が一人ずつ順番に聖書を朗読し、自分の考えを述べる実践を行った。校内壁面の宗教的なディスプレイなどに工夫を凝らし、子どもの目を集め、学内のカトリック学校的な雰囲気醸成を醸し出した。また神父様の協力を得て、教員宗教研修会を2回行った。

- ③組織を挙げて子どもたち一人ひとりを大切に受け止め、児童が学校で自分は愛されているという喜びに満ちあふれ、「通いたい」「学びたい」「共に過ごしたい」と感じるような学校を目指した。

(2) 自己点検と評価

- ①保護者による学校評価を実施し、かつ教職員による自己点検と学校評価を行った。

実際に、それまでの学校評価の方法に加え、保護者自由記述欄を設けたり、教員自己評価を行った。

- ②校務分掌組織部会ごとに活動状況を定期的に振り返り、次の活動へ効果的につなげた。

(3) 学習支援の推進

児童が充実感や成就感をもてるような授業を目指し展開できるよう努力した。

(4) 教員のレベル向上

教員スキルアップのための計画的な教職員研修を実施した。

①研究授業

学期ごとに、1学期は5年算数、2学期は3年国語、3学期は1年算数。
それぞれ学年で研究に取り組み、本番の研究授業、事前・事後研究会を持った。

②公開授業

2年英語、4年理科、6年体育、また専科の授業としては、社会、家庭、図工、音楽で公開授業を行った。

③新着任研修は

学期ごとに1回ずつの計3回行った。それぞれ研修会を持つだけでなく、テーマに従って事前準備し、意見発表、レポート、プレゼンテーションの形で行った。

④校内研修会

4月（本年度の教育方針）、8月（夏休みの学年提案研修）、3月（総括）

⑤その他の研修

2学期に危機管理研修（教室への不審者侵入時の対応）を行った。
また、研究授業を学内のみで行うのではなく、指導者を招いて、新しい研修企画を試みた。学外研修にも積極的に参加し、1年間に延べ185人が研修に参加した。

上記以外の特に大きな改革の取り組みとしては、教育課程外土曜の年間30回の土曜英語塾SEEDの立ち上げを目指して、企画準備を進め、2012年度に開講の運びに進めたことが挙げられる。

2. 児童支援事業

(1) 児童生活支援

- ①集団生活を行う上で必要な約束やきまりの実行を、家庭と協力して徹底できるように、文書の配付、説明会の実施、学校便りへの掲載を行った。
- ②登校班の取り組みを推進し、登校下校時、上級生下級生がふれあう中で児童が安心して安全な登下校ができるよう、しっかり習慣づける努力した。
- ③特別教育支援に対する教員の関心・理解を深め、委員会の機能を充実させた。
特に、教育支援の必要な子どもたちに目を向け、聖母教育支援センターの協力の下、全体で見守るための教育支援会議を立ち上げた。

(2) 保護者の方々との協力関係の構築

- ①児童・保護者からの信頼感を得ることを第一に活動を行った。
保護者参加の運営委員会を年間7回実施し、毎回学校の色々を報告・相談しながら、共に手に手を取り合って教育を考えるように努めた。

3. 教育環境の整備

私立の小学校として、保護者に満足感を与えることのできる施設になるよう努めた。
特に、1階、2階の全トイレの改修工事を行い、子どものニーズに配慮して洋式トイレを増設した。階段の照明を明るいものに交換し、児童や外来者から好評を得た。

4. 社会連携・貢献事業

ルワンダ・レスキュー隊、毎月の「米一握り運動」、ウォーカーソン活動参加などを通し、自分以外の人の幸せに目を向け行動する大切さを教育した。
特に、2年ぶりにルワンダより、支援先のルダシングワ真美ガテラ夫妻の来校を受け、全校集会を持ち、支援の精神を高めた。

5. 児童の募集・入試に係る事業

(1) 児童の募集活動強化

ホームページは、リニューアルをタイムリーに行い、学校見学の案内、学校行事の案内などタイムリーにアップし、募集の大きなツールとして機能させるよう努めた。
学内幼稚園との交流を回数・形態ともに工夫して活発化し、12回行った。

(2) 関係各所との連携

合唱団、ブラスアンサンブル、ドッジボールのクラブは、全国大会へ向けて活躍したり、地元の深草商店街の催しに進んで参加したりする等、他校や地元と積極的に交流し活動した。

大阪聖母学院小学校

1. 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

- ① 建学の精神および学校教育目標の具現化を目指し、各学年目標や校務分掌における「宗教教育部」「生徒指導部」「人権教育部」「研究部」の4部門が連携しながら活動した。
2012年度は、SEIBO5にある『建学の精神の徹底』に向け、なお一層努力をしていきたい。
- ② どの学年・部門においてもカトリック教育を基盤とした学習集団を養成することを第一の目標にすえて活動を企画し、研修および実践を行った。例年実施しているQ-Uテストを2011度も2回実施し、児童の心の状態や友達関係を深く知ることに役立てた。
- ③ 教員の資質向上を課題として、研究部を中心に計画している研究授業は、年間に各学年1回実施し、事後研究会も含め、教員全体で授業力の向上を目指した。2012年度は、全体の研究教科を算数に切り替え、SEIBO5にある『教育力の向上』に努める。

(2) 自己点検と評価

- ① 年度はじめに各教員が「教育職員自己申告」を書き、それぞれの目標を明確にした上で、学期ごとにその達成度を点検して自己評価を行う予定であったが、途中ならびに年度末の振り返りが十分にできていなかった。2012年度は、各自が自己を振り返り、評価・反省・向上に努めていくよう、管理職が指導助言を行い、目標の実現を支援していきたい。
- ② 学校評価を児童対象に年2回(6月・2月)行い、子どもたちが「学校が楽しい」と心から思えるような学校づくりを目指した。また、保護者対象アンケート(9月)も実

施し、その結果を保護者に公表した。さらに保護者代表による学校関係者評価（3月）を経て、総括を行った。2012年度は、SEIBO5の『一体感の醸成』を目指し、教員はもちろん保護者とも連携を常にとっていきたい。

（3）学習支援の推進

- ①基礎基本の徹底のために教科書を丁寧に扱うことはもちろん、学年に応じて適切な課題を与え、習熟に努めた。さらに高学年においては早朝、放課後に希望制で補習も実施し、学力の伸長に努めた。また、友だちと関わり支えあって学ぶ学習集団を目指し、そのような授業の組み立てに努めた。
- ②全校で漢字能力検定を2月に実施し、2011年度は、過去最高の結果で最優秀団体賞を受賞した。また5・6年では進路指導のため、業者（育伸社）によるテストを年3回実施した。

（4）教員のレベル向上

4部門において教員研修会をそれぞれ実施した。

- ①宗教教育部 年6回の研修を実施（講師 矢野神父様）
- ②生徒指導部 年5回の研修を実施
- ③人権教育部 年3回の研修を実施
- ④研究部 年7回（1回は図工科）の研究授業と全員による公開授業を実施
- ⑤夏季教員研修（8月）
- ⑥新任教員対象 中堅・ベテラン教員による模範授業を実施

2. 児童支援事業

（1）生活の支援

- ①様々な背景を持つ子どもたちが安心して楽しい学校生活を送ることができるよう、児童をより深く理解するためにも、教員側から声かけを励行し、休み時間には子どもたちと常に触れ合っていくよう努めた。2012年度は、SEIBO5の『一体感の醸成』を目指し、教育支援センターとの連携をさらに深めていきたい。
- ②就業している保護者の子育て支援の一環として、昼食の配食サービス、学童保育プチパを行った。2012年度は、希望制で給食を導入する。
- ③必要に応じてベルナデッタ奨学金や授業料減免制度を紹介した。

（2）保護者の方々との協力関係の構築

- ①保護者会活動の一環として学級委員を各クラス2名ずつ選出し、保護者相互の親睦活動を行っていただいた。
- ②参観授業や懇談会を定期的に行い、年度初めの懇談会では、教育方針への理解と協力を図った。
- ③学期末には個人懇談会を実施し、子どもについての情報を交流し協力を求めた。
- ④1年生の保護者を対象にキリスト教教育講座を年5回開催し、廣岡洋子理事長、矢野吉久神父を講師に招いた。

3. 教育環境の整備

- ①子どもたちによる清掃活動を中心に校内の美化に努めた。
- ②耐震補強工事を行うとともに教室や廊下、トイレなどを美しくリニューアルした。
- ③月1回の安全点検も例年通り行い、事故の防止に努めた。
- ④2010年度より始めた「アフタースクール」は低学年対象であったが、4年生に進級

しても継続を希望する児童も少なくなく、延べ人数で200人を超える児童が参加した。開講教室は、「体操」「サッカー」「ヒップホップダンス」「タップダンス」「図画工作」「そろばん」「和装礼法」である。

4. 社会連携・貢献事業

2011年3月に発生した東日本大震災への救済・復興募金は聖母教育支援センターを通して行事ごとに行った。

また、2011年3月31日は、保護者会・同窓会とも連携をとりながら「東日本大震災支援チャリティーコンサート」を実施した。その他、カトリック香里教会の釜が崎支援に協力して、年間を通して「お米一握り運動」を行った。

5. 児童募集・入試に係る事業

(1) 児童募集活動の強化

志願者の一層の増加を目指して、塾・幼児教室訪問、幼稚園・保育園訪問を全教員で実施した。また、随時学校訪問を受けつけ、授業公開を積極的に行った。さらに昨年に続きプレテスト(幼稚園年長児対象の適性検査)を行い、広報に努めるとともに、C日程試験、転入学試験を実施し、定員の充足を図った。

また、2013年度募集に向け、3月に幼稚園年中児対象『行動観察プレテスト』を計画し実施したところ、2回あわせて120人の参加者があった。今後も、SEIBO 5にある『入学者の安定的確保』のため、教員一丸となって努力していく。

(2) 関係各所との連携

何よりも大阪聖母女学院中学校との連携をはかるため、校務分掌に小中高連絡委員会を設け、連携の方策を話し合った。さらに京都聖母学院幼稚園にも出張説明会を行い、連携を図った。また塾・幼児教室との連携を深め、ポスターや学校案内を広く配付するために、塾・幼児教室対象の説明会を行い、信頼関係の構築に努めた。2013年度募集に関しては、広報課とも連携をとって、幅広く募集活動を進めていく予定である。

京都聖母学院中学校・高等学校

「SEIBO 5」のテーマである「建学の精神の徹底と教育力の向上」に向け、1. 教育事業、2. 生徒支援事業に関して、次の各内容について取り組んだ。

1. 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

- ①新コース体制発足3年目で中学全学年が新コース体制となった。各コースの特色が明確になり、生徒・保護者に浸透した。
- ②学校力・教育力・指導力・チーム力を充実・向上させるための取り組みを推進するにはやや力不足であった。個々の教員の力量に頼る場合が多く、チームとしての取り組みに欠けていた面がみられる。
- ③新書タイムを開始、生徒の読書力向上と理解力の定着につながった。一方、ロジック

タイムを予定していたが、学習内容の定着に追われ実施できなかった。

④自学自習力養成のため、放課後自習教室・考査前休日自習教室の充実を図ることができた。特に、考査前休日自習教室は毎回、出席者が100人を超え、学校の制度として定着したことは喜ばしいことである。

⑤朝の祈り・ミサ・宗教の時間などでは沈黙を大切にして指導にあたった。今後いつそうカトリックの人間観・世界観の醸成に努めていく。

(2) 自己点検と評価

①授業評価（自己評価、公開授業時に保護者からの評価）を例年どおり実施。保護者の評価を知ることができたが、結果を十分に次に活かすまでには至らなかった。

②授業力向上のための研修・人権に関する研修を実施したが、実践に十分活かされているとはいえない。

(3) 学習支援の推進

①学習内容定着を常に意識し授業を行った。今後、徐々に生徒に定着していくものと思われる。

②教室へ行きにくい生徒は、実際は、登校しづらい生徒である。登校することができれば教室に入れる場合が多く、いかに登校へ結びつけるかが課題である。

(4) 教員のレベル向上

①全員による公開授業を実施し他の授業を見学。よい指導法を学ぶなど、成果を上げることができた。

2. 生徒支援事業

(1) 生活の支援

①教員による声掛けを推進してきたが、学校全体で活力あふれる雰囲気醸し出すまでには至らなかった。

(2) 保護者の方々との協力関係の構築

①学校便りを定期的に発行。また、学年、クラスにより学年通信や学級通信を発行し、情報提供を積極的に努めたことにより保護者からの評価を得た。

②中学校では、保護者が学校を訪問する機会を増やすため、保護者懇談会の回数を増やしたが参加率は低かった。仕事を持つ保護者が多く工夫が必要であった。

③ホームページを利用して、学内の教育活動に関する情報を公開したことに対してよい評価をいただいた。

3. 教育環境の整備

「SEIBO 5」のテーマである「環境の整備」推進のため、次の点に取り組み成果をあげた。

①各教室に大型テレビを設置。多目的教室・体育館の音響設備の改修を行い、生徒の教育環境向上を図ることができた。

②耐震改修工事後の校舎の美化に努めるため、一斉清掃を開始。生徒全員が美化意識をもつことにつながった。

③補修が必要な個所の改修を積極的に行った。

4. 社会連携・貢献事業

「SEIBO 5」のテーマである「一体感の醸成」を図るため、次の点に取り組んだ。

- ①同志社女子大学と連携を強化。コース設立に至った。
- ②福祉体験を通して、奉仕の喜びと協力の重要性を学ばせることができた。
- ③合唱コンクール、定期演奏会など、学外施設での活動を広報し、活気溢れる生徒の様子を広く知ってもらうように努めた。

5. 生徒募集・入試に係る事業

「SEIBO 5」のテーマである「入学者の安定的確保」および「財政の健全化」に向けて、生徒募集活動強化を図った。

(1) 生徒募集活動の強化

- ①塾訪問の回数を増やし、年間を通じた広報活動を行うことができた。
- ②年間の募集に関する予定において他校の動向に左右される場合が多く、後手に回ってしまった部分があった。
- ③中学入試に特待制度を導入した結果、受験生は増えたが、入学者数の増加にはつながらなかった。
- ④高校入試に関して募集力を強化した結果、入学者数は、前年比ほぼ倍増した。

(2) 関係各所との連携

- ①学外生に対する募集活動が中心となり、学院内小学校への対応が不足したことは大きな反省点である。次年度は、学内小学校対応専門チームをつくり迅速かつ的確な対応を心がけていきたい。
- ②塾回りは質量ともに高めることができた。ただし、時間をかけて信頼関係を構築する部分があり、その点に関しては今後努力が必要である。
- ③公立中学校への広報活動も質量ともに高めることができた。ただし、中学校によっては進路担当者だけで情報が止まっている場合があり、その点に関する対応は難しい。
- ④在校生の保護者・卒業生・同窓生を巻き込んだ広報活動は、今後、検討していく。

大阪聖母女学院中学校・高等学校

1. 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

- ①週5日制を6日制に変更、45分授業を50分授業に変更して、学習時間を拡充することにより学習内容の確実な定着を図った。
- ②二学期制を三学期制に変更し、学期と休暇の不整合を解消した。2ヶ月に1回のペースで定期考査を実施することにより学習内容の効率的な定着を図った。
 - ①と②は一体のものとして展開した。生徒は早い段階で順応し、大きな混乱はなく制度として定着した。学習内容の確実かつ効率的な定着の効果については、2012年度以降も引き続いて検証作業を行う。
- ③自学習慣の確立について、高校生を対象とする「居残り学習」に加えて中学生を対象とする「自学自習教室」を夏休みに実施し、約20人の生徒が参加した。2012年度からは放課後の「居残り学習」に中学生の参加を認める方向で検討す

る。また、従来から行っている定期考査前の学習計画を年間計画に拡大する方向で検討し、2012年度から学習計画ノートを作成することとした。

- ④土曜日に読書の時間を設定し、文章読解力・集中力・思考力の伸展と視野の拡大を図った。当初の予想どおり、読書を習慣づけるためには週1回では効果は不十分であり、今後の課題である。

(2) 自己点検と評価

- ①公開授業の機会を年間5回設け、授業評価を実施した。今後は参観に来ていただく保護者の数を増やす努力と工夫が必要である。
- ②高校のスタディーサポート、中学の学力推移調査をもとに結果分析会議を開き、学習指導の効果を常に確認することについて、特に高校3年生ではデータにもとづく進路指導会議を複数回実施し、学年団や教科担当者がチームとして進路指導にあたる体制を築いたことが、国公立現役合格6人をはじめとする合格実績に結びついた。
- ③3学期制・6日制への変更について、生徒・保護者へのアンケートによる評価を行った。

(3) 学習支援の推進

- ①補習・補充授業による基礎学力の定着について、新しく高等学校の新入生に対するサポートとして「アジャストメントプログラム」を創始、実施した。
- ②希望進路実現のサポートについて、教科指導の側面から今年度の合格実績を支えたものとして評価できる。

(4) 教員のレベル向上

- ①教科・分掌単位の研修会で学んだが、今後は教科内だけでなく全体で共有するシステムをつくっていくことが課題である。
- ②教員間の研究授業は、本年度は実施できなかった。

2. 生徒支援事業

(1) 生活の支援

- ①部活動や委員会活動を積極的に推進し、多くのクラブで自主性、協調性を養成できた。
- ②年間を通じて、担任による個人面談を複数回実施した。特に中学校では基本的な生活習慣と学習習慣の確立をサポートし、高等学校では進路指導面をサポートできた。
- ③給食制度の導入の検討は来年度の課題とした。

(2) 保護者の方々との協力関係の構築

- ①1ヶ月に1～2回ペースで保護者の方に来校いただく機会（公開授業・学年会・面談週間、生徒行事）を設定し、信頼関係の構築をはかった。来校いただく保護者の人数を増やす工夫が必要である。
- ②保護者会・同窓会との連絡を密にし、学校、保護者会・同窓会が相互の活動に積極的に参加できる機会を設け、協力関係の構築を図った。3月の東日本大震災支援チャリティーコンサートは良い機会となった。

※1. と2. は、「SEIBO 5」の「建学の精神の徹底と教育力の向上」というテーマに深く関わるものである。「教育力の向上」の観点から、進路指導・教科指導・生活指導の各側面での教員の指導力向上に一定の成果がみられた。

3. 教育環境の整備

2年計画での耐震リニューアル工事の設計を実施し、2012年度から工事を実施する。

※「SEIBO 5」の「環境の整備」というテーマに深く関わるものである。2012

年度からの耐震リニューアル工事により、安全・安心かつ良好な教育環境の整備を実現していく。

4. 社会連携・貢献事業

- ①タイ隊（タイでの国際ボランティア）派遣は、洪水の影響から中止とした。
- ②部、学年単位での福祉施設訪問について継続して実施するとともに、新たな取り組みとして東日本大震災支援活動を行った。
- ③寝屋川市との包括連携協定にもとづき、保護者会による「クリーンキャンペーン」参加をはじめ、地域の各イベントへ保護者会役員・学校代表者が参加した。コーラス・ハンドベル部が教会や幼稚園、また関西医大香里病院等で演奏活動を行った。

※「SEIBO 5」の「建学の精神の徹底」に深く関わるものであり「愛と正義と奉仕」の精神の実践活動として今後も積極的な取り組みを継続する。また「一体感の醸成」の観点から、今後も保護者・同窓生・地域の連携をさらに深める工夫をしていく。

5. 生徒募集・入試に係る事業

(1) 生徒募集活動の強化

- ①クラブ交流会の実施（年間6回）、学院内児童対象のクラブ開放、内部保護者対象説明会の実施、特待制度の創設・適用など、学院内小学校との連携を強化した。2012年度入試では17人の内部進学者があった。
- ②学校案内パンフレットやホームページなど広報ツールにおける情報発信の瞬発力を高める取り組みについては、なお不十分であった。
- ③90周年を迎える取り組みや生徒たちのエネルギッシュな活躍を、積極的に発信する取り組みについても、不十分であった。
- ④入試広報室を中心に系統立てた広報活動を展開した。
- ⑤部活動の交流や学校訪問等を通じて、地域の中学校・小学校との連携を深め、地域に開かれた学校としてのアピールを強化した。具体的例として、バスケット部による聖母カップ開催などが挙げられる。
- ⑥各種行事に近隣の方々を招待し、地域に根ざした学校としてのアピールを強化した。特にクリスマスの集いに多くの方々に来校していただいた。お花見の集いは天候に恵まれなかったが来校された方からは「来年も楽しみにしています」とのお言葉をいただいた。

(2) 関係各所との連携

- ①塾に対し各塾の出身生徒の学力推移、生活状況等をこまめに伝え、本校のきめ細やかな学習指導についての理解を促した。
- ②新規訪問の塾、中学校に対しては本校で学ぶ生徒の学力推移を数値やグラフで示し、学力面でのサポート力の高さとともに、教育環境の良さをアピールした。
- ③新入生に母校への近況報告を促した。

※生徒募集は、「SEIBO 5」の「入学者の安定的確保」「財政の健全化」というテーマに深く関わるものである。また、「一体感の醸成」のテーマとも深く関わるものである。本年度、学院内小学校に対する新しい取り組みは実施できたが、塾への働きかけについてなお不十分であった。生徒募集・入試に係る事業について、一層の努力と工夫をしていく。

京都聖母女学院短期大学

2011年当初の事業計画を踏まえて、「SEIBO 5 短大推進計画」を作成し、「SEIBO 5」の取り組みを行った。

1. 「SEIBO 5」教育事業

(1) 学科・コースの再編

①生活科学科

生活科学専攻は、2011年度より、キャリアデザイン専攻に名称変更をするともに、新たな6コース体制となった。食物栄養専攻では、メディカル栄養コースと、栄養教諭コースを設けた。

②児童教育学科

2011年度から、コース名称を、「こども教育コース<小・幼・保>」と「こども保育コース<幼・保>」とに変更し、教育内容と取得資格を明確にした。

(2) 教育充実のための取り組み

①全学共通の取り組み

ア. 全学共通科目履修に、「地域教養」科目を開講した。また、キャリア教育の一貫として、時代に即した「就職超氷河期の読み方&行動学」をテーマに「特別講義Ⅰ・Ⅱ」を開講した。

イ. 公益財団法人大学コンソーシアム京都に単位互換科目として「人間学」「京の文学と風土」を提供した。

②生活科学科

ア. 2専攻8コースの専門性の高いコースを設けることで、学びの目的を明確にし、到達可能なキャリアを明示した。学科必修科目「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」(通年)は、専門分野に応じた早期の基礎的教育を可能にした。クラス担任として、常に学生の動向を把握し、一人ひとりに応じた指導を行った。また、教材と教育方法を検討し、FD活動を活発に行い教育力の向上と教育の質を高めた。

イ. 生活科学専攻では、最後の卒業生が専門教育の集大成として、必修科目の卒業研究の成果を要旨集として発行するとともに、大学コンソーシアム京都を会場として発表会を行った。その教育効果は大きく、キャリアデザイン専攻に名称は変わったものの発展的に継承できた。

ウ. 食物栄養専攻では、小学校、地元保育園などで食育活動を行い、社会性の育成、食育実践力の向上に役立てるとともに、「SEIBO 5」に掲げる一体感の醸成につなげることができた。また、料理・献立・栄養関連コンテストに応募することで教育効果が増し、学生のモチベーション維持と広報に貢献した。

エ. インターンシップの充実、両専攻で開講中の「ボランティア活動」の受講を進め、社会性を高める教育を推進した。

③児童教育学科

ア. 「就職実践演習」開講開始年度であったため、全学生の履修カルテを作成し、個々の学生の履修指導に活かした。

イ. 「総合演習」を「児童教育基礎演習」として新規開講した。それに伴い、シラバスの改善、テキストの導入により、初年次教育の充実が進展した。

- ウ. 保育士養成課程変更に伴うカリキュラム変更で、「保育課題実践」の見直しを行い、次年度からの「保育実践演習」導入に向け、ゼミ系科目の再検討を行った。
- エ. 「保育実習」「教育実習」の授業を全教員で指導する体制は定着してきた。同時に協力園のアンケート調査で、実習先校園や諸機関との連携を深めた。
- オ. 実習指導を核にした進路指導で、高い就職率を維持することができた。
- カ. 「聖母こどもフェスティバル」を、学生の学習成果発表の場となり、「SEIBO 5」に謳う地域社会との一体感の醸成に繋げる行事になった。

(3) 研究活動

- ① 科研費(2件)、本学特定研究費(4件)及び一般研究費の交付等を受けて、本学教員は研究活動を活発に展開しており、その成果の一部は本学内2回の学術講演会、学術研究紀要第41集に結実・公開している。教育・校務多忙の中にあつての教員の鋭意努力と、本学院の篤い研究活動支援の賜物である。
- ② 研究活動の関連として、生活科学科では第5回生活福祉講演会及び第9回生活科学講座を開催した。児童教育学科では、教員免許更新講習を開催した。

(4) 自己点検と評価

2004年に、すべての大学は、文部科学大臣が認めた機関による認証評価(「認証評価制度」)を受ける義務を有したが、本学の所属する公益財団法人「大学基準協会」は、この度その主旨に沿って2013年から、大幅な改革を新システムにより実施とした。本学自己点検・評価委員会においても、今回の改革の主旨や意義を十分に理解し、検討して新しい取り組みを検討している。

(5) 学修支援の推進

- ① 履修については学期初めの教務ガイダンスで、全体の説明、専攻ごとの説明に加えて個別相談にも対応し履修指導を徹底した。保護者会では、サポート体制の説明、成績表をもとに履修状況の確認等を伝えた。単位取得状況および欠席状況については、各教員が早期に学生に対応した。
- ② 学生の心のケア、健康面を重視し学生相談室、保健室の活用を促し、学生の不安感を和らげた。インフルエンザ対策として、教職員全員に予防接種を実施し最小限の感染に止めた。

2. 「SEIBO 5」学生支援事業

在校生・保護者の満足度向上につなげるべく、諸施策を実施した。

(1) キャリア教育の推進

- ① 2012年3月卒業生の進路決定率は96.5%と、かつてない極めて高いレベルとなった(前年卒業生95.7%)。これは、教職員協同のもと、学生一人ひとりを大切に支援する本学院の指導体制による賜物である。
- ② 1回生前期から1グループ5~6人のミニガイダンスを実施し就職への意識を高めた。後期には、SPI模擬試験、マナー講座、学内合同企業説明会等を開催し、就職活動へと結びつけた。
- ③ 2回生では履歴書、面接等の個別指導を行い、専門職への就職希望者(栄養士、介護福祉士、教員、保育士等)には随時、教員・実習指導員・キャリアセンター職員が個別に相談を実施した。また、公的機関である学生専用ハローワーク、京都府就職支援プロジェクトを昨年度同様活用し、高い効果を得た。

- ④ 1 回生対象のインターンシップは、実際の職業を体験することでその後の就職活動の大きな力となり、実習教育に劣らぬ成果があった。
 - ⑤ 特別講師を招いて開講した集中講義科目「キャリアデザイン演習」も時代対応力の養成や就職に対するモチベーションの高揚に寄与した。
- (2) 「SEIBO 5」学生支援事業：学生の自主活動を推進する
- ① 学生を主役とした広報活動、学業に支障のない範囲での地域交流・地域連携、メディア掲載は、「SEIBO 5」推進計画の入学者の安定的確保、地域社会との一体感の醸成につながった。
 - ア. 交通安全啓発活動を目的に伏見警察署とともに本学学生のボランティア組織「チームマドンナ」を結成し、「夏の交通事故防止府民運動」ほか5件の活動に参加し、多くのメディアに活動状況が取り挙げられた。
 - イ. 大学祭では学友会として震災復興のため、福島県特産品販売と募金活動を学舎外でも行い、「SEIBO 5」に掲げる学生の自主性、一体感を醸し出すことができ、建学の精神の発揚にも大きな意味を持った。
 - ② 開講諸行事として、新入生歓迎会、下宿生の集いを実施した。また、学友会活動、課外活動（京都学生祭典を含む）、大学祭等学生の自主的活動のサポートを図り、充実した学生生活を送れるよう支援した結果、多くの成果を得た。
- (3) 奨学金制度の充実
- ① 奨学金は、日本学生支援機構、後援会奨学金、同窓会奨励金制度、ベルナデッタ貸与奨学金・ベルナデッタ給付金があり、合計184人が利用した。
 - ② 2012年1月本学が、2012年度より社団法人生命保険協会「介護福祉士養成奨学金制度の新規指定校」に指定された。
- (4) 保護者の方々との協力関係の構築
- ① 年2回の保護者説明会および保護者への学内情報提供を実施した。
 - ② 入学式後の保護者会では、事故補償をする任意学生保険および有利な就職の武器と資格取得を目的とするエクステンション講座の案内を行った。

3. 「SEIBO 5」環境の整備

- (1) 教育環境の整備：施設・設備の修繕
学舎内のリニューアル整備として9月に短大本館および体育館トイレの全面改修工事を実施した。
- (2) 教育環境の整備：情報システムの整備・高度化
図書システム更新、ライブキャンパス・システム更新・コンピュータ教室ハード切り替えを実施した。

4. 「SEIBO 5」社会連携・貢献事業：一体感の醸成

- (1) 地域貢献の推進
学生の自主的活動、社会貢献活動を通じて、カトリックの教えを内面化し精神性を高めることにより、本学が地域に根ざした短期大学としての立場を確立し、地域社会との信頼関係を深め、一体感の醸成を推進している。
 - ① 生活科学科
介護予防サロン、京都市やんちゃフェスタ、近畿農政局との提携による食育活動「こどもお料理教室」を実施し、学生の指導力を養うとともに広報活動にも役立て

た。

②児童教育学科

「聖母こどもフェスティバル」、カナダ生まれの親支援プログラム「ノーバディーズ・パーフェクト（NP）」、「バランスボール講座」、「親支援プログラム「ベビー・プログラム（BP）」等々を企画・運営している。「SEIBO 5」の実現を目指す本学の特徴的な取り組みとしてさらに進めていく。

(2) 生涯学習支援

公開講座「伏見学2011」は、5回の講座を実施し、伏見の自然・文化・歴史などを学ぶ機会を市民や府民に提供した。伏見区誕生80周年記念事業「伏見連続講座」対象講座としても開講したことで、1,040人の来聴者を数えた。

5. 「SEIBO 5」入学者の安定的確保：学生募集・入試に係る事業

(1) 入試制度と入学生数

本科入試では、前年度入試とほぼ同数、専攻科入試では、19人減であったが、2012年度の目標数値255人を達成することができた。

年度	2008	2009	2010	2011	2012
本科入学生数	274人	280人	173人	252人	253人
専攻科入学生数	15人	18人	25人	31人	12人

(2) 学生募集活動の強化

オープンキャンパス、AO入試、進学説明会、出前授業等運営諸施策の見直しを行った。2度の進路特別相談会実施、受験生目線の媒体作成、資料請求者への個別対応など、地道に働きかけや諸般の協力が、募集活動の成果として現れたものと評価している。

(3) 高校訪問広報活動強化

- ①「京都」の冠を着せ、京都聖母女学院短期大学として、2010年から広報活動を進めてきた。まだまだ浸透に時間がかかるが、2011年度入学者の近畿地方以外の高校数は7校から19校に増加した。就職決定率も高く、<就職に強い聖母><資格に強い聖母>の徹底したPRと「京都聖母」ブランドの浸透を進めている。
- ②入試ガイドブックの体裁をリニューアル、AO入試ガイドを別刷とし、受験者に分かりやすくした。
- ③オープンキャンパス参加者がAO入試出願者に繋がる働きかけや、高校別出願状況を訪問担当、広報関係者、短大部科長会メンバーに素早くフィードバックするなど、一体となつての入試広報を進めることができた。

Ⅲ. 財務の概要

1. 2011年度(平成23年度)決算概況

(1) 消費収支計算書

今年度の決算について前年度との比較に重点をおきながら説明する。

[消費収入の部]

- ・学生生徒等納付金 21 億 1,258 万 3 千円 (帰属収入の 63.3%)

前年度に比べると1億529万円の減額である。基礎となる学生・生徒・児童・園児数は2011年5月1日現在、京都聖母女学院短期大学481名、大阪聖母女学院中・高等学校401名(中学校181名、高等学校220名) 京都聖母学院中学・高等学校753名(中学校333名、高等学校420名)、大阪聖母学院小学校554名、京都聖母学院小学校792名、京都聖母学院幼稚園141名 合計3,122名である。前年度から145名の減少である。

- ・手数料 2,543 万 4 千円 (帰属収入の 0.8%)

前年度に対し214万円の増額である。本年度は大学入試センター試験実施手数料105万円の収入があったが、殆ど受験料収入で構成されている。

- ・寄付金 1 億 1,295 万 1 千円 (帰属収入の 3.4%)

京都学院小学校への特別寄付金が前年度に比べ2,560万円増加し、寄付金全体では前年度に比べて2,540万円の増額である。

- ・補助金 9 億 6,776 万 1 千円 (帰属収入の 29.0%)

私立大学等経常費補助金9,079万円、私学運営費等の補助金7億7,162万9千円、私立高校授業料支援補助金4,769万5千円、大阪聖母学院小学校の耐震改修補助金4,064万4千円等となっており、補助金は前年度に比べ9,334万円ほど減少した。

- ・資産運用収入 2,363 万 2 千円 (帰属収入の 0.7%) 前年度比 626 万円の減少。

- ・事業収入 1,630 万 2 千円 (帰属収入の 0.5%) 前年度比 215 万円の減少。

- ・雑収入 7,874 万 4 千円 (帰属収入の 2.3%) 前年度比 1 億 1,052 万円の減少。

前年度退職金財団収入1億4,951万円に対し、今年度は退職者の減少により2,387万6千円と収入が減少した。

これらの結果、帰属収入合計は33億3,740万7千円となり、前年比2億9,003万円の減少となった。

- ・基本金組入額 9 億 8,338 万 1 千円 (前年度 4 億 4,176 万円)

今年度にて、過年度に取得した資産を基本金に組入れたため大幅な増額となった。内容としては、ガレージ(旧常安寺跡)土地、構築物7億8,461万8千円、短大

山林 400 万円、公用車 247 万 6 千円で合計 7 億 9,109 万 5 千円である。

今年度の主要なものは大阪聖母小学校耐震補強関係で 1 億 2,479 万 5 千円、および付随設備 1,428 万円、短期大学本館トイレ改修工事 6,610 万 1 千円、京都聖母学院小学校トイレ改修工事、設備更新等 2,717 万 4 千円、短期大学コンピュータ教室リプレース費用 1,417 万 5 千円、法人本部ソフトウェア 1,376 万 8 千円、大阪聖母女学院中・高の耐震診断業務が 700 万円である。

なお、帰属収入から基本金組入れ額を差し引いた消費収入合計は 23 億 5,402 万 5 千円だが、過年度基本金組入れを除く消費収入合計は 31 億 4,512 万 1 千円で前年度比 4,054 万円の減少である。

[消費支出の部]

- ・人件費 21 億 3,806 万 2 千円（帰属収入の 64.1%、前年度 22 億 8,100 万円）
退職金が 2,297 万 6 千円と前年度から 1 億 4,625 万 8 千円減少した。なお、2011 年度内の退職者は短期大学 3 人、大阪聖母女学院中・高 3 人、大阪聖母小学校 1 人、京都聖母学院中・高 3 人、京都聖母幼稚園 1 人の計 11 人（前年度は 25 人）である。
- ・教育研究経費 8 億 8,343 万 6 千円（帰属収入の 26.4%、前年度 9 億 4,260 万円）
主なものとして修繕費が 1 億 8,809 万 2 千円で前年度から 5,762 万円減少した。
- ・管理経費 2 億 236 万 5 千円（帰属収入の 6.1%、前年度 2 億 6,571 万円）
主な減少項目は、前年の雑費和解金の減少により 5,504 万円、印刷製本費 316 万円、用品費 200 万円等である。
- ・借入金等利息 823 万 8 千円（帰属収入の 0.2%、前年度 1,185 万円）
- ・資産処分差額 9,558 万 1 千円（帰属収入の 2.9%、前年度 73 万円）
主な内容は、セミナーハウス除却 3,978 万円、大阪聖母学院小学校耐震改修による除却 2,957 万 4 千円、短期大学トイレ改修に伴う除却 2,622 万 7 千円である。
- ・徴収不能引当金繰入額 220 万 4 千円（帰属収入の 0.1%、前年度 77 万円）

以上により、教育事業活動に要した物件費、人件費等の総額である消費支出合計 33 億 2,988 万 4 千円となり前年比 1 億 7,279 万円の減少となった。

この結果、過年度基本金組入れを除く消費収入から消費支出を差し引いた当年度消費収支差額（支出超過額）は 1 億 8,476 万 4 千円で前年度比 1 億 3,225 万円の改善が見られた。過年度基本金組入れを含む翌年度繰越消費支出超過額は 9 億 4,003 万 5 千円である。

(2) 貸借対照表

- ・資産総額 126 億 7,795 万 4 千円

資産の部合計に表しており、前年度末に比べて3億7,018万円減少した。

- ・負債総額14億9,031万円

負債の部に表しており、前年度末に比べて3億7,770万円の減少である。

正味資産(純資産)は111億8,764万5千円で前年度末に比べ752万円の増加となり、ほぼ横ばいで推移した。

(3) 資金収支計算書

ここでは消費収支計算書と重複する科目を除き説明する。

[収入の部]

- ・寄付金収入9,422万3千円(前年度7,489万8千円)
消費収支計算書の寄付金収入から現物寄付金を控除した金額である。
- ・前受金収入2億9,944万2千円(前年度2億8,773万4千円)
2012(平成24)年度入学生から徴収した入学金等であり、前年比1,171万円の増加。
- ・その他の収入7億5,202万円
前期の未収入金の回収、修学旅行預かり金の受入れが大半を占めている。なお、特定資産の引出し額及び繰入額は元本の増減時に表記する。
- ・資金収入調整勘定6億3,447万3千円
期末未収入金の計上、前期末前受金の振り替え額で構成されている。

以上により当年度の収入総額は42億2,726万5千円となった。

[支出の部]

- ・人件費支出21億1,297万6千円(前年度22億8,123万円)
人件費は、教職員人件費として20億6,816万7千円(消費収支と同額)、退職金支出が4,480万9千円で、総額の減少要因は退職者の減少によるもの。
- ・教育研究経費6億1,680万2千円
- ・管理経費1億7,261万5千円
いずれも減価償却額を控除した額を計上している。
- ・施設関係支出2億1,145万8千円
大阪聖母学院小学校の耐震改修にかかる費用が中心である。
- ・資金支出調整勘定△1億1,770万8千円

以上により、次年度繰越支払資金は1億6,543万1千円となり前年度から3億6,534万減少した。

2. 経年比較

(1) 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
学生生徒等納付金収入	2,625,253	2,452,819	2,390,350	2,217,871	2,112,583
手数料収入	34,164	29,478	28,296	23,290	25,434
寄付金収入	65,088	118,423	127,812	74,900	94,223
補助金収入	1,068,184	981,223	1,004,660	1,061,105	967,761
資産運用収入	22,522	27,467	24,833	29,891	23,632
資産売却収入	1,934	0	288,201	0	0
事業収入	5,611	8,799	16,711	18,792	16,758
雑収入	205,520	346,665	162,245	163,219	39,114
借入金等収入	0	400,000	300,000	140,000	0
前受金収入	155,470	159,924	239,933	287,734	299,442
その他の収入	659,010	613,855	5,505,837	4,355,429	752,020
資金収入調整勘定	△ 367,968	△ 499,940	△ 334,009	△ 500,343	△ 634,473
前年度繰越支払資金	1,064,576	1,100,572	489,856	644,413	530,772
収入の部合計	5,539,364	5,739,285	10,244,725	8,516,301	4,227,266

支出の部	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
人件費支出	3,004,477	3,444,985	2,439,030	2,281,233	2,112,977
教育研究経費支出	452,701	396,847	500,273	632,219	616,802
管理経費支出	214,233	222,217	281,427	240,207	172,616
借入金等利息支出	22,006	17,264	15,296	11,858	8,238
借入金等返済支出	148,880	548,880	548,870	269,350	137,690
施設関係支出	28,808	134,056	393,230	335,329	211,458
設備関係支出	18,251	16,651	57,168	39,319	89,444
資産運用支出	298,618	744,759	4,488,882	4,032,574	268,254
その他の支出	518,026	486,604	1,175,418	490,857	562,064
資金支出調整勘定	△ 267,208	△ 762,834	△ 299,282	△ 347,417	△ 117,709
次年度繰越支払資金	1,100,572	489,856	644,413	530,772	165,432
支出の部合計	5,539,364	5,739,285	10,244,725	8,516,301	4,227,266

※千円未満四捨五入

(2) 消費収支計算書

(単位：千円)

消費収入の部	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
学生生徒等納付金	2,625,253	2,452,819	2,390,350	2,217,871	2,112,583
手数料	34,164	29,478	28,295	23,290	25,434
寄付金	79,204	126,744	131,734	87,548	112,951
補助金	1,068,184	981,223	1,004,660	1,061,105	967,761
資産運用収入	22,523	27,467	24,833	29,891	23,632
事業収入	5,506	8,525	17,669	18,457	16,301
雑収入他	23,800	352,263	411,752	189,270	78,744
帰属収入合計	3,858,634	3,978,519	4,009,293	3,627,432	3,337,406
基本金組入額合計	△ 172,814	△ 237,312	△ 525,512	△ 441,768	△ 983,381
消費収入の部合計	3,685,820	3,741,207	3,483,781	3,185,664	2,354,025

消費支出の部	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
人件費	2,811,171	3,418,974	2,573,564	2,281,004	2,138,061
教育研究経費	745,479	650,297	743,700	942,605	883,436
管理経費	229,083	237,387	290,904	265,714	202,365
借入金等利息	22,006	17,264	15,296	11,858	8,238
資産処分差額	46	12	28,367	726	95,581
徴収不能引当金繰入額	11,457	3,252	3,421	771	2,203
消費支出の部合計	3,819,242	4,327,186	3,655,252	3,502,678	3,329,884
当年度消費収支超過額	△ 133,422	△ 585,979	△ 171,471	△ 317,014	△ 975,859
前年度繰越消費収支超過額	△ 1,946,311	△ 2,079,733	△ 2,598,182	△ 2,583,303	△ 2,897,018
基本金取崩額	0	67,530	186,350	3,299	35,824
翌年度繰越消費収支超過額	△ 2,079,733	△ 2,598,182	△ 2,583,303	△ 2,897,018	△ 3,837,053

※千円未満四捨五入

(3) 貸借対照表

(単位：千円)

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
固定資産	12,267,365	12,692,757	12,076,800	12,176,444	12,094,248
有形固定資産	9,791,280	9,681,674	9,565,087	9,614,787	9,534,484
その他の固定資産	2,476,085	3,011,083	2,511,713	2,561,657	2,559,764
流動資産	1,365,774	914,773	891,007	871,693	583,707
資産の部合計	13,633,139	13,607,530	12,967,807	13,048,137	12,677,955
固定負債	1,917,159	1,437,888	1,166,843	1,011,615	857,700
流動負債	665,985	1,468,315	745,596	856,400	632,610
負債の部合計	2,583,144	2,906,203	1,912,439	1,868,015	1,490,310
基本金	13,129,728	13,299,509	13,638,671	14,077,141	15,024,698
第1号基本金	12,799,728	12,969,509	13,308,671	13,747,141	14,694,698
第4号基本金	330,000	330,000	330,000	330,000	330,000
基本金の部合計	13,129,728	13,299,509	13,638,671	14,077,141	15,024,698
消費収支差額の部合計	△ 2,079,733	△ 2,598,182	△ 2,583,303	△ 2,897,019	△ 3,837,053
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	13,633,139	13,607,530	12,967,807	13,048,137	12,677,955

※千円未満四捨五入

以 上